

『ラキシスとログナーについて分からないことが多すぎる件』内容見本

騎士と呼ばれる超人が戦闘ロボット GTM で戦う。それがファイブスター物語だ。ぼくが夢中になっているこの漫画について、その理由を書き記したい。

永野護が描くファイブスター物語は第6話、魔導大戦「マジスティック・スタンド」が月刊ニュータイプにて漫画連載中。この漫画はラストまでの大まかな話の流れが、まだ描いていないエピソードを含めて、数千年規模の年表として単行本の巻末にて公開されているのが特徴だ。星団暦 3030 年から 3075 年までの話。それが魔導大戦の始まりから終わりだということが、その年表に書かれている。殺されかけた詩女マグダルが復活しボスヤスフォートに再戦を挑むクライマックスが、以前から予告されている。しかし、この魔導大戦の途中で作者はアニメ映画『花の詩女 ゴティックメード』制作のために連載を中断。ファイブスター物語のモーターヘッドと異なる、ゴティックメード (GTM) と呼ばれる新デザインのロボットが出てくるこの映画は、ファイブスター物語と全く関係ないと告知されていたが、連載が再開したときにファイブスター物語は GTM が覇者となる世界に変わっていた。その経緯については 2014 年に頒布した個人誌『NAGANO!』に書いたのでここでは割愛する。

そして、進行中の魔導大戦と一見関係のないように思える、異世界での神々の戦いが始まり、ファイブスター物語が何でもありの世界、おとぎ話だということをぼくは思い出した。その戦いのエピソード、通称ラキシス 7444 では、ミラージュ騎士団を率いる主人公アマテラス (天照帝) の妻、ラキシスがとんでもない戦闘能力の持ち主であることが分かった。そして、このエピソードがきっかけで、最も謎が多いとされている最強のミラージュ騎士、ログナーの秘密が徐々に明かされようとしている。

今回は、主にラキシスとログナーについて書く。

ファイブスター物語 16 巻に掲載されているラキシス 7444 エピソードに出てきたキーワード、数式生命体や世界創世式については意味不明で、SF の知識や SF ファンとしての想像力が無ければ言及不可能だと感じたので、それらの探究はパスする。刊行予定のデザインズ 7 を読まなければ書けないことが多過ぎるのだ。そうではあるが、ラキシス 7444 とログナーの秘密を、解明しようなどと思わずに振り返ってみたい。だから、ここで書くのは中間レポートでしかない。

そして、ぼくが気になるのは、その後、ミラージュ騎士団の騎士団長がログナーから斑鳩に替わると作者が発言していたことだ。

なお、ぼくはこれまでにファイブスター物語の感想を個人誌として 2 冊頒布しましたが、今回は物語に出てくる用語を解説する項がありません。

登場するロボットがモーターヘッドから GTM に変更されたのは単行本 13 巻から。読んだことのない方々へ、それだけはお知らせしておきます。

目次

ニュータイプに掲載されたデザインズ	3
ファティマと呼ばれるラキシスについて	3
ラキシス 7444 の要約	4
天照帝が参戦しなかった理由	5
カレンは干渉する	6
大君主バフォメートのまなざし	8
あまりの馬鹿馬鹿しさにファイブスター物語を読むのをやめてもよし	12
キャラクター・パワー・バランス	13
ログナーについて分かっていたこと	15
ログナーが神である仮説	16
アスタローテはモナークを止める	20
神々への抗い (マジスティック・スタンド)	21
ラキシスの本体	23
結論	23
あとがき	25

ニュータイプに掲載されたデザインズ

ラキシス 7444 エピソードが連載中ではあったのだが、月刊ニュータイプ 2020 年 6 月号と 7 月号では、COVID-19（いわゆる新型コロナウイルス）拡散防止の緊急事態宣言を受けて、どうしても密になる漫画アシスタントとの共同作業が困難であると判断し、やむなく連載を中断。作者の永野護が個人で可能な企画として、デザインズというタイトルで未発表の新設定が公開された。月刊ニュータイプ 2021 年 9 月号も同様の理由でデザインズの掲載となった。デザインズとはファイブスター物語の設定画や解説文が掲載される作品集シリーズの名称で、これまでに 6 冊刊行されている。一般的なアニメ作品における設定資料集に相当するこのデザインズを、作者は作品集と呼んでいる。

ニュータイプに掲載されたのは刊行予定のデザインズ 7 からの先行公開でもあるはずだが、とにかく、驚きの大発表ばかりであった。その多くは、連載中のラキシス 7444 についての補足であったり、今後繰り広げられるスタント遊星攻防戦についてのメモ、そして星団暦 7777 年以降に誕生する者たちについての予告など、広範に及ぶものとなった。なお、ラキシス 7444 は星団暦 3037 年のエピソードだ。

ファティマと呼ばれるラキシスについて

まずここでファティマについて解説する。戦闘ロボット GTM を操る騎士をサポートするナビゲーター、高度な生体コンピューターとして作られる人間そっくりの生物、それがファティマだ。ガーランドと呼ばれる特殊な才能を持つ天才科学者によって彼女たちは生み出される。騎士とファティマがいて GTM はその戦闘能力を発揮するように作られている。なお、ファティマを作るガーランドと同等に戦闘ロボット GTM を作るガーランドがいる。GTM もファティマも特殊な才能を持つ天才科学者でなければ作れない。

生物の優位性からほとんどのファティマが女性であり、また彼女たち少女は高度な技術で作られるので歳を取らず、人間よりも長命だ。しかし星団法（ファイブスター物語の世界、ジョーカー太陽星団の法律）により人権が剥奪され、また、性交は可能だが妊娠出来ない体として作られる。人間を超えた生命体であるファティマに子孫を残す権利を与えるのは人類存続の危機と考えられたからだ。

かつてラキシスは、コーラス 3 世の妻エルメラから、あなたたちファティマは子供を産めないだろうと問われ、いづれ産むと発言している。それが何を意味するのか。この時点で、遙か未来の星団暦 7777 年に誕生するカレンが天照帝とラキシスの娘であることは公表されていたのだが、このラキシスの発言は、どうやらカレンのことではないらしいのだ。それは、この物語の謎のひとつであった。このことについては後述する。

元々ファティマとして誕生する予定だったラキシスは茶色のショートカットで身長が低い少女だが、時として彼女は藍色ロングヘアの女として読者の前に現れる。オペラスーツ

と呼ばれる特別なファティマスーツを着ている。身長も高くなっている（本来ファティマは髪や身長が固定され成長しないようプログラムされている）。これが未来のラキシスの姿であることが連載初期から予告されていた。そして、その姿が「ラキシスの本体」なのだとファイブスター物語 16 巻にて再定義された。

最高峰であり異端のガーランド、バランシェは、幼少の頃（ファティマとして制作途中）のラキシスからの、永遠の命を持つ神である天照帝とずっと一緒にいたいという願いを受け入れ、ファティマの能力を備えたまま「ダブル・イプシロン・ヒューマン」そして「意志体」と呼べる驚異の生命体に作り替えた。

月刊ニュータイプ 2020 年 6 月号と 7 月号掲載のデザインズによると、ショートカットのラキシスとは別に、高次元の弥勒菩薩ラキシス（藍色ロングヘアの状態）が姿こそ見えないが「ラキシスの本体」として存在しているのだという。そして、ラキシス 7444 エピソードが掲載された 16 巻では、本体が現時点のラキシス、本体から見れば過去の自分に干渉する形でその姿を現すと追記された。

過去に、浮遊城での内乱にてミラージュ騎士団の天位騎士シャフトとの戦闘で彼を打ち負かしたことがあるラキシスはショートカットのままだったので、元々ラキシスは天位騎士を超える戦闘能力を備えていることが読者には知られていた。他の登場人物には知られていない。

戦闘ロボット GTM の操縦サポートを行うファティマは騎士の超人的に素早い反射神経に付いていけるよう通常の人間を超える速さと強さを備えている。それらは騎士には及ばないが騎士以外の人間よりは強い。しかしそれゆえに全ての人間に服従することがプログラムされている。ファティマが人類の脅威とならないための法律だ。

ファティマが騎士級の強さを備えることは技術的に不可能とされ、それは星団法違反だからだ。異端の天才ガーランドのバランシェだからそれが可能だった。これまでも、バランシェ第一作のクーンや、ラキシスのすぐ上の姉にあたるアトロポスが騎士と同等の力を備えていることが確認されている。

ラキシス 7444 の要約

ファイブスター物語の人間たちを監視し、ごくまれに人間世界に干渉するセントリーは、高次元の存在で、かつてドラゴンと呼ばれた。神々と人間との中間に位置し、5 種が存在する。セントリーの幼児期の状態は幼生と呼ばれる。ラキシス 7444 エピソードは、そのセントリー 5 種のひとつブリッツの幼生ショウメを狙って現れた、異世界からの敵と戦う、ラキシスとその一味（元システム・カリギュラのツバンツヒとマウザー、彼らの部下 2 名、ミラージュ騎士の剣聖マドラ）といった話として始まった。しかし、どさくさに紛れてラキシスを狙う者たちも出現。

これがとんでもない話で、登場するキャラクターが全て神レベルの強さ。我々にとって

神または悪魔としか呼べない者ばかりが勢揃い。次々と出てくる奴らは、殺しても死なないうような者ばかりなので、必殺技も、惑星を破壊、消滅させるレベルの破壊力だ。

月刊ニュータイプ 2020 年 7 月号掲載のデザインズにて、騎士の武器であるガット・ブロウに似せた神剣、懐園剣の正式な所有者がラキシスであることが公表された。そして、ラキシスがその懐園剣を使ったのは今回が初めてだ。

ラキシス 7444 での出来事をラキシスについてだけ振り返ってみる。異界の敵に殺されたかけたラキシスは、藍色の髪のラキシスになった。そこからが無敵だった。超帝國剣聖を上回るスキルで立ち向かい、懐園剣を自在に操り、異形の者たちを次々と倒し、次元回廊（ファイブスター物語の魔法使いボルテツが使う重力制御の力）で消し去った。これまでに登場した、ありとあらゆる騎士のなかで最も強いことが明らかとなった。これが、ラキシスの本当の力なのだと、ぼくは震えてしまった。

しかし、ちょっとした油断でラキシスはピンチに陥った。その直後に出現したスペクターによってラキシスは保護され、神々の戦いが続いていく。ラキシスのオペラスーツの宝石から強力な下僕たちが召喚されたが、ラキシスは眠ったような状態で、エピソードの終わりまでそのままだった。

天照帝が参戦しなかった理由

月刊ニュータイプ 2021 年 10 月号によると、レンダウド、ナオ、コーラス 4 世、そしてマドラは「かつての超帝國剣聖の意識が能力ごと転化した剣聖」だ。剣聖とは騎士のなかで最も強い者に与えられる称号だが、超帝國剣聖はそれよりも上位にある。星団暦より以前の AD 世紀の支配者、炎の女皇帝ナインが生み出した、セブンソードと呼ばれる超帝國 7 剣聖は「素手で GTM を破壊する」という、現在の星団暦の騎士とは比べものにならない異常な強さなのだが（デザインズ 5 参照）、星団暦に出現した「意識が能力ごと転化した」彼らはそれほどでもない、強い騎士でしかない。何かしらのきっかけで剣聖レベルの強さを発揮するらしい。

ラキシス 7444 エピソードにて天照帝が妻ラキシスのために異世界に遣わしたのは、高次元存在のスペクターとポーター、そして GTM マグナパレスとレンダウドだ。レンダウドは超帝國 7 剣聖の一人であり、現在はミラージュ騎士となっている。

そして、これまでの設定解説では全能神カレンが送り出したとされていた懐園剣は、実はカレンの親である天照帝がラキシスを助けるために急遽作ったものだと発表された（デザインズ 5 ではカレンが産み出したと書かれていた）。なお、懐園剣について、月刊ニュータイプ 2021 年 11 月号で作者は「カレンがかつてに送り込んだものなので、アマテラスもどうしようもなかった」と語っている。

とある事情で、この戦いに参戦不可能だった天照帝。なぜ参戦しなかったのか。その理由は、そのニュータイプ 11 月号の作者コメントにある。我々が悪魔と呼んでいる今回の

敵、ヴィーキュルはジョーカー宇宙の存在。すなわち天照帝の上位存在であるジョーカー太陽星団の創造主、全能神アマテラス大御神が作ったものなので、自分が作ったものと天照帝は戦うことが出来ない。

納得したような納得出来ないような。ちょっと意味が分からない。そうであれば天照帝は誰とも戦えない。ぼくはそう感じてしまった。とにかくあの天照帝が無理だって言うてるのだから無理だったんだろう。これも正式な回答はデザインズ7を待たなければならぬということだろうか。

カレンは干渉する

ファイブスター物語の番外編として描かれたエピソード「五つの星の物語」がある。十曜のシルヴィスと闇華（アンカー）のセンタイマ。その争いはファイブスター物語の主な舞台となるジョーカー太陽星団とは別の宇宙、タイカ宇宙での出来事だ。かつてシルヴィスを狙ったセンタイマは、その後ラキシスを狙ったことがあった。センタイマはわざわざ別の宇宙からジョーカーの浮遊城（天照帝や天照家そしてミラージュ騎士団の本拠地）に出現したのだ。その目的は不明であるらしい。それを制したのは未来からやって来た天照帝とラキシスの娘である全能神カレンと、光の神ユライヒであった。それが今回のラキシス7444よりも前の話。

とにかく、センタイマという訳の分からない奴がいて、今回もラキシスを狙って来た。奴と呼んだがセンタイマは無の神とされ、ファイブスター物語に登場する神々のひとりとなっている。もちろん、とんでもなく強い。

かつて人であったシルヴィスとセンタイマは神へと昇華している。この物語ではそういうことがたまに起こる。なお、この物語では、神だから正しいなどということはない。

センタイマによってフリーズさせられたラキシスはスペクターに救出されたが、その後の戦いはセンタイマ対ラキシスを守る側の神々という構図となった。その最終ラウンドに登場したのが大神マキシ。かつてミラージュ騎士だった最強の剣士だ。今回の戦いでは、神々がいきなり出現するのだが、センタイマが仕掛けた時空の罠でなかなか出現できなかった（だから登場が遅れた）という経緯がある。この時点でラキシスの側にいるのは、高次元存在のスペクターとポーター、女神シルヴィス、大神マキシ、そして全能神カレンだ。ラキシスと行動を共にしていたマドラたちは既に死亡していた。

マキシとセンタイマの決闘はマキシの勝利。しかし、瀕死の重症を負ったセンタイマは一瞬で元に戻り、異世界に帰った。帰る前に彼は、マドラたちラキシス側の人間を元に戻していった。元々はラキシスを狙ってやって来たセンタイマだが、マキシとセンタイマの決闘は試合のようなものだったのか。どうせ元に戻すのだった。滅ぼすつもりなんてなかった。始めからそのつもりで行われた手合いのようなものだったのだろうか。ぼくはそんなことを、ぼんやりと考えていた。センタイマはラキシスの「言葉」をキャッチしていて、